

**報告タイトル**

中国における農村住民の市民化の生活満足度に関する実証研究  
ー農村から都市への移住を中心としてー  
**An Empirical Study on the Life Satisfaction of Rural Residents in China**  
**-Focusing on migration from rural areas to cities-**

**氏名(所属)**

高 キン(東洋大学)  
GAO XIN (University of TOYO)

**要旨(800字程度)**

中国では2010年代以降、都市化が進むにつれて、農村から都市への移住人口(都市常住人口と都市戸籍人口)は年々増加している。農村から都市への人口移動に影響を与える要素は多く、大きく能動的な要因と受動的な要因の2種類に分けられる。能動的な要因は都市への就職、就学など自らの意志で自発的に都市に移住するもので、受動的な要因は農民所有する土地が政府または開発者により徴用され、都市への移住を余儀なくされる。これらの異なる移動要因により、農村から都市への移住は生活満足度がどのような変化をもたらしたのだろうか?

中国における都市への移住者の生活満足度に関する先行研究では、農村から都市に移住によって生活満足度は低下しているという結果が得られたが、移住者の自己選択による可能性を排除できないことを示している。そこで本研究の目的は、土地徴用など受動的な要因で農村から都市への移住者に焦点を当てて、移住後の生活満足度の変化と要因を実証分析により究明することである。

具体的には、中国家族追跡調査(China Family Panel Studies, CFPS)の時系列調査データを用いて、諸生活指標は生活満足度を与える影響も検討し、実態の評価と分析を行う。主眼は、調査対象は満足度をどのような評価しているのか、都市化の発展をよりよく促進するために、人々の満足度が低い方面を分析する。

分析の結果、受動的な要因によりの移住は、外界の介入で都市への移住者は自分の意志ではないが、国が制度を整備し、補償をしてきたことで、人々は満足し、成功したと言える。

しかし、都市部に長時間移住する人の生活満足度は低い、特に20代の人、配偶者がいない人と子供がいない人の満足度は年々低下している。政府はもっと努力し、政策を改善し、移住者を市民化し、都市化の発展をよりよく推進していく。